

豊里



白銀世界で冬の思い出を作る

ときめきキッズクラブの第3回学習会「そり遊び・スキー教室」は2月9日、大崎市のオニコウベスキー場で開かれ、クラブ会員など24人がそり遊びとスキーを楽しみました。スキーのグループは、初心者と経験者に分かれ、それぞれ指導員から丁寧に滑り方のレクチャーを受けました。そり遊びのグループは、そり滑りの競争やスノーチューブを体験。最後はみんなでゲレンデに旗を立て、スノーフラッグを楽しむなど、ゲレンデならではの遊びを満喫していました。

お金の価値を駄菓子から学ぶ

「だがしや楽校」(吉田公民館主催)は2月21日、善王寺コミュニティセンターで開かれ、約200人が来場しました。今回が初めての試みとなった「だがしや楽校」は、子どもが自分たちでどの駄菓子売るかなどを計画・準備し、販売。当日は、お客さんとコミュニケーションを取りながら、予定を上回るペースで駄菓子が売れました。買い物をする人の中には、初めて買い物をする子どももあり、お金の価値や使い方を学んでいました。



米山

迫



子どもの育成に向け地域一丸

「迫町子ども会育成フォーラム」(迫町子ども会育成連絡協議会主催)は2月9日、迫公民館で開かれ、小中学校のPTA会員など約60人が参加しました。フォーラムでは、町内4地区から選ばれた子ども会の代表者とジュニアリーダーの会長がパネリストになり、夏休み親子旅行やクリスマス会、親子なわとび大会への参加など、各団体の活動を報告。意見交換会では、地域子ども会の育成や活性化などを話し合い、情報を共有していました。

石越



環境の変化に合わせた子育て

青少年のための登米市民会議石越支部と石越町子ども会育成協議会の「合同会員研修会」は1月26日、石越公民館で開かれ、地区住民約50人が参加しました。研修会では、東北学院大学教養学部の平野幹雄教授が、子どもの発達と家庭や地域の役割について講演。参加者は、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化や、親だけでなく、子どもたちを地域で育て、支えるために必要な考え方やその大切さを学びました。

福を呼び込む節分豆まき大会

専称寺の「節分豆まき大会」は2月3日、専称寺境内で開かれ、訪れた約50人が福を呼び込もうと豆を拾いました。豆まき大会では、祥姿の今年の子供が「福は内」の元気な掛け声とともに、豆の入った小袋をまきました。小袋の中には、当たりクジが入っていたものがあり、クジに応じてさまざまな豪華景品が贈られました。訪れた人たちは歓声を上げながら、たくさんの豆を拾い、今年一年の厄除けを願いました。



登米

にぎやかな歌と踊りの閉講式

「平成30年度東郷福寿大学閉講式・芸能祭」(東郷地区コミュニティ推進協議会主催)が2月21日、東郷公民館で開かれました。福寿大学は、東郷地区の老人クラブ会員を対象に、研修会などを通じた交流と生活の知恵を身に付けることが目的。今年度は、交通安全や電気を安全に利用するためのセミナーなどを開催しました。芸能祭では、会員が歌や踊りを披露。子どもたちの飛び入りもあり、にぎやかな芸能祭になりました。



南方

東和



寒さを吹き飛ばす盛り上がり

「第7回錦織公民館まつり」は2月17日、錦織公民館で開かれ、約500人が来場しました。ステージでは、小学生が神楽や和太鼓を、保育園児がダンスなどを披露。最後は、錦織地区の歌自慢・踊り自慢が一同に会し、大いに盛り上がりました。館内には、陶芸教室の作品展やつるしびなど数々の作品を展示。軽食コーナーが売り切れになるほどの盛況ぶりです。目で、耳で、舌で体感する冬の寒さに負けない熱い祭りになりました。

津山



厄除けを願って福は内、鬼は外

横山不動尊の「節分豆まき」は2月3日、横山不動尊境内で開かれ、福を求めて大勢の人が訪れました。本堂でご祈禱した豆袋が「福は内、鬼は外」の掛け声とともに勢よくまかれました。まかれた豆袋には当たり付きの福豆もあり、参加者は「福よ来い」とばかりに手を伸ばし、福を呼び込んでいました。当たり付き福豆を持った人には「亥・不動明王」と刻印された福升や福飴などが贈られました。

地域の特性を考えた避難訓練

細谷行政区の「細谷区避難誘導訓練」は2月24日、細谷ふれあいセンターで実施され、約130人が参加しました。細谷行政区は、県自主防災組織の育成・活性化支援モデル事業に指定されており、地域の特性を考えた防災計画や自主防災組織の強化に取り組んできました。今回の避難訓練は、大雨による水害発生を想定。訓練では高齢者や負傷者の避難支援や自主避難を呼び掛け、自助・共助の意識を高めました。



中田